



平成25年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年2月8日

上場取引所 大

上場会社名 株式会社 キムラタン
コード番号 8107 URL <http://www.kimuratan.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 浅川 岳彦
問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 木村 裕輔

TEL 078-306-0801

四半期報告書提出予定日 平成25年2月8日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第3四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第3四半期	3,612	1.1	88	78.1	63	137.1	59	217.0
24年3月期第3四半期	3,572	9.6	49	316.4	26	—	18	—

(注) 包括利益 25年3月期第3四半期 59百万円 (217.0%) 24年3月期第3四半期 18百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第3四半期	0.08	—
24年3月期第3四半期	0.02	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年3月期第3四半期	2,219	1,129	50.9	1.43
24年3月期	1,976	1,070	54.2	1.36

(参考) 自己資本 25年3月期第3四半期 1,129百万円 24年3月期 1,070百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
25年3月期	—	0.00	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,850	0.9	90	17.6	60	38.3	30	37.3	0.04

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注)詳細は、添付資料5ページ「2.サマリー情報(注記事項)に関する事項(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年3月期3Q	790,093,101 株	24年3月期	790,093,101 株
25年3月期3Q	82,908 株	24年3月期	82,333 株
25年3月期3Q	790,010,518 株	24年3月期3Q	790,010,862 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。業績予想の前提となる情報及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページの「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する情報	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 継続企業の前提に関する注記	9
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9
(5) セグメント情報等	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
25年3月期第3四半期	3,612	88	63	59
24年3月期第3四半期	3,572	49	26	18
増減率	1.1	78.1	137.1	217.0

当第3四半期(平成24年4月1日から平成24年12月31日まで)におけるわが国経済は、欧州経済の低迷や中国の成長鈍化に影響され、先行き不透明な閉塞感に継続して覆われておりましたが、昨年末の政権交代により経済回復への期待感が急速に高まりました。金融緩和拡大の予測から円高修正基調は着実に進行し、これに伴って株価も上昇、経済の先行指標は高まる状況にありました。

このような状況のもと、当社は当期を「将来成長を目指した事業基盤の再整備」の年と位置づけ、重要な課題に集中的に取り組んでまいりました。各事業収益構造の一層の改善、商品消化率の向上、将来成長への仕込み、大きくはこの3点であります。現在も継続して取り組み中ではありますが、当第3四半期業績にも成果は表れ、わずかながら増収、大幅な増益を確保することとなりました。

上記の重要課題解決に全組織、全社員のベクトルを統合するため、当期において「統合本部」を設置し、この指揮下でぶれない全社最適を追究しております。具体的には、本年2月に実施する物流業務の完全外注化、直輸入比率拡大による仕入コスト削減、システム強化による在庫掌握力と処理実行力の強化、新商品、新型店舗の創出に取り組んでまいりました。

リテール事業では、インショップの新規出店による収益拡大と直輸入比率の拡大を推進し、収益性の一層の向上を目指してまいりました。また、ネット通販及びテナント・ショップにおけるアウトレット販売を強化し、在庫処理能力の向上に取り組んでまいりました。さらに、将来成長へ向けた新ブランド「ドルチーナ」の開発、店舗デザインを刷新した「新型店舗モデル」の開発にも取り組んでまいりました。

ホールセール事業においては、前期に引き続き新規得意先の開拓と既存得意先におけるシェア拡大に注力し、売上の拡大に繋げてきました。同時に、商品企画の見直しによる粗利率の改善と物流業務の効率化を推進し、収益構造の改善に努めてまいりました。また、得意先様の特性に特化した商品企画、営業活動を目指して事業部内を再編制し、将来のさらなるシェア拡大に向けた取り組みも実施いたしました。

加えて、平成24年8月20日に公表のとおり、中国に国内卸販売を主目的とする子会社を10月に設立し、11月には販売を開始するに至りました。なお、当該子会社の決算期は12月であり、当社の決算期とのずれが3ヶ月以内であることから、子会社の業績及び財政状態は、当第4四半期において連結することとなります。

売上高は、前年同期比1.1%増の36億12百万円となりました。リテール事業においては、ショップ業態が上期に苦戦したものの、下期以降は回復基調にあり、また、ネット通販がアウトレット強化により引続き好調な推移となりました。ホールセール事業では、新規開拓とシェア拡大が進行し、専門店卸が引き続き順調に拡大いたしました。

売上総利益につきましては、ネット通販を中心としたアウトレット販売強化による利益率の低下要因があるものの、仕入コストの削減や当期商品の値引き抑制による改善に努めてまいりました。一方で、当期において物流業務の全面外部委託の意思決定をしたことを機に、今後発生が見込まれる保管料や販売直接コストを考慮し、廃止ブランドの在庫品を中心に一部廃棄や売価設定の見直しを検討しました。その結果発生した棚卸資産の簿価切下げ額を売上原価に計上したことにより、利益率は前年同期比1.4ポイント減の46.3%となり、利益額は前年同期比1.9%減の16億72百万円となりました。

販売費及び一般管理費につきましては、前年同期比 4.3%減の 15 億 84 百万円となりました。前期における不採算業態撤退による効果と、物流業務プロセスの効率化によるコスト削減等により、売上高販管費率は前年同期に対し 2.4 ポイント減少の 43.9%となりました。

以上の結果、営業利益は 88 百万円（前年同期比 78.1%増）、経常利益は 63 百万円（前年同期比 137.1%増）、四半期純利益は 59 百万円（前年同期比 217.0%増）となりました。

リテール事業

ショップ業態では、既存店ベースの売上高は、上期に前年同期比 6.2%減と苦戦しましたが、第3四半期は概ね前年ペースまで回復し、第3四半期累計では前年同期比 4.0%減となりました。出退店につきましては、当第3四半期において 14 店舗の出店と 3 店舗の閉店を実施し、当四半期末の店舗数は 157 店舗となりました。以上の結果、ショップ業態の全店ベースの売上高は、前年同期比 2.4%減の 20 億 56 百万円となりました。

ネット通販の売上高は前年同期比 23.1%増の 2 億 87 百万円となりました。取扱いブランド数の拡大と、アウトレット販売における品揃えの拡充を図った結果、購買客数の拡大と客単価アップに繋がり好調な推移となりました。

その他催事販売の売上高は、セール開催時期を変更した関係で、前年同期比 43.5%増の 39 百万円となりました。

なお、f a s ショップにつきましては、2012 年 2 月に全店閉店するに至っております（前年同期の売上高は 1 億 2 百万円）。

以上の結果、リテール事業全体の売上高は前年同期比 3.5%減の 23 億 84 百万円となりました。仕入コスト削減に f a s ショップの撤退効果が加わり、セグメント利益は前年同期比 11.1%増の 2 億 72 百万円となりました。

ホールセール事業

ホールセール事業では、GMS（総合スーパー）への販売は秋物以降持ち直しつつあるものの、第3四半期累計では縮小となりました。専門店卸販売は大手や中堅先との取り組み拡大、新規取引先の開拓、「マザーグース」の販売拡大により、前期に引き続き増収となりました。

以上の結果、ホールセール事業全体の売上高は前年同期比 11.5%増の 12 億 27 百万円となり、粗利率改善と物流を中心とした経費率の低減により、セグメント利益は前年同期から大幅増の 1 億 14 百万円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

	前連結会計年度末	当第3四半期 連結会計期間末	増減
総資産(百万円)	1,976	2,219	242
純資産(百万円)	1,070	1,129	59
自己資本比率(%)	54.2	50.9	—
1株当たり純資産(円)	1.36	1.43	0.07
借入金残高(百万円)	226	413	187

総資産は前連結会計年度末と比較して2億42百万円増加し、22億19百万円となりました。主な増加は、現金及び預金86百万円、受取手形及び売掛金57百万円、商品及び製品69百万円であります。なお、前年同四半期末と比較すると、受取手形及び売掛金は2百万円の増加、商品及び製品は65百万円の減少となりました。

負債は前連結会計年度末と比較して1億83百万円増加し、10億89百万円となりました。主な増加は支払手形及び買掛金45百万円、借入金1億87百万円であり、主な減少は経費等の未払金48百万円であります。

純資産は前連結会計年度末と比較して59百万円増加し、11億29百万円となりました。これは四半期純利益によるものであります。

以上の結果、自己資本比率は、前連結会計年度末の54.2%から50.9%となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当第3四半期累計期間の業績は、計画を上回る推移となりました。しかしながら、昨年末からの急激な円安の影響による仕入コストの増加や物流・本社移転に関連する費用の増加も見込まれることから、通期連結業績予想は前回予想(平成24年5月11日公表)を修正しておりません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

なお、この変更による当第2四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(株)キムラタン(8107) 平成25年3月期第3四半期決算短信

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	229	316
受取手形及び売掛金	750	807
商品及び製品	814	884
仕掛品	8	12
原材料及び貯蔵品	32	21
その他	12	32
貸倒引当金	△15	△15
流動資産合計	1,832	2,059
固定資産		
有形固定資産	61	54
無形固定資産	23	21
投資その他の資産		
破産更生債権等	432	422
その他	36	76
貸倒引当金	△409	△414
投資その他の資産合計	59	84
固定資産合計	143	160
資産合計	1,976	2,219
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	424	470
短期借入金	50	150
1年内返済予定の長期借入金	47	80
未払法人税等	9	5
返品調整引当金	8	4
ポイント引当金	4	5
その他	227	183
流動負債合計	773	898
固定負債		
長期借入金	128	183
資産除去債務	3	3
その他	—	3
固定負債合計	132	190
負債合計	906	1,089
純資産の部		
株主資本		
資本金	903	903
資本剰余金	221	221
利益剰余金	△50	9
自己株式	△4	△4
株主資本合計	1,070	1,129
純資産合計	1,070	1,129
負債純資産合計	1,976	2,219

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第3四半期連結累計期間

(株)キムラタン(8107) 平成25年3月期第3四半期決算短信

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	3,572	3,612
売上原価	1,874	1,943
売上総利益	1,697	1,668
返品調整引当金戻入額	14	8
返品調整引当金繰入額	7	4
差引売上総利益	1,704	1,672
販売費及び一般管理費	1,655	1,584
営業利益	49	88
営業外収益		
受取利息	0	0
消費税差益	5	—
保守部品収入	0	0
その他	2	2
営業外収益合計	8	3
営業外費用		
支払利息	10	7
支払保守料	7	10
その他	13	9
営業外費用合計	31	27
経常利益	26	63
特別利益		
特別利益合計	—	—
特別損失		
固定資産除却損	1	—
訴訟関連損失	1	—
その他	0	—
特別損失合計	3	—
税金等調整前四半期純利益	23	63
法人税、住民税及び事業税	4	4
法人税等合計	4	4
少数株主損益調整前四半期純利益	18	59
四半期純利益	18	59

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	18	59
その他の包括利益		
その他の包括利益合計	—	—
四半期包括利益	18	59
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	18	59
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	リテール 事業	ホールセール 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,472	1,100	3,572	—	3,572
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,472	1,100	3,572	—	3,572
セグメント利益	244	42	287	△237	49

(注) 1 セグメント利益の調整額△2億37百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注) 2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	リテール 事業	ホールセール 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,384	1,227	3,612	—	3,612
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,384	1,227	3,612	—	3,612
セグメント利益	272	114	386	△298	88

(注) 1 セグメント利益の調整額△2億98百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用及び棚卸評価損が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注) 2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(注) 3 会計上の見積りの変更と区分することが困難な会計方針の変更に記載のとおり、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却に変更したため、報告セグメントの減価償却の方法を改正後の法人税法に基づく方法に変更しております。

なお、この変更による当第3四半期連結累計期間のセグメント利益に与える影響は軽微であります。